

令和7年度 くまだこども園 自園評価

◎—よくできている ○—ほぼできている △—努力が必要 —該当なし

1・保育理念

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
こども園の理念、目標、方針を保護者に知らせている。	○	園見学時には「入園のしおり」を用い、入園説明会では重要事項説明書に基づいて、理念・目標・方針を全保護者へ口頭で説明した。さらに、運動会や生活発表会でも、園が大切にしている考え方を伝えた。

2・保育計画

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育計画を作成し、見直しをもった保育を実施している。	○	幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、教育・保育課程、年間指導計画、月案、週案、日案を作成し、見直しをもって保育を実施した。
年間計画、年間行事の見直しをしている。	○	子どもが主体的に活動でき、保護者が子どもの成長を実感できるよう、年間計画および年間行事を継続的に見直した。

3・人権尊重

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
子どもの人権が尊重され、大切にされていると感じる。	○	家庭環境や子どもの思いを受け止め、子どもが自分を表現できるよう、丁寧な関わりを心がけた。また、大人の思いや考えを一方向的に押し付けられないよう努めた。

4・個人情報保護

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
個人情報の扱いについて入園時等で説明する。	○	入園時に個人情報の取扱いを説明した。個人情報を含む書類は施錠できる書棚に保管し、園内研修を通して守秘義務を全職員へ周知した。
業務上で知り得た子どもの情報に関する守秘義務について全職員で周知する。	◎	
保護者からの相談の内容の守秘義務について全職員で周知する。	◎	

5・保育内容

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
遊びに入れない子どもや、全体の様子に気を配っている。	○	一人ひとりの子どもに丁寧に関わり、指示・命令・禁止を中心とした言葉かけを避け、子どもの気持ちを受け止めたうえで言葉をかけるよう心がけた。
子どもがのびのびと意見や意思が表現できるような保育が行われている。	○	子どもの気持ち・意見・考えを大切に、否定的な言葉かけを避けるよう心がけた。一方、危険な場面や友達を傷つける言動が見られた場面では、否定的な表現になることがあったため、行為の理由を具体的に伝える言葉かけへ改善する必要がある。
遊びを通して、友達や保育士との関わりが十分持てるよう配慮されている。	○	保育者も一緒に体を動かして遊び、子ども同士や保育者との関わりが生まれるよう援助した。
遊びや生活を通して人間関係が育つような配慮をしている。	○	クラスや異年齢での遊び・生活を通して、人間関係を育んだ。集団に入りにくい子どもには、臨床心理士の助言を踏まえ、無理強いないで段階的に集団との距離を縮められるよう支援した。
身近な自然や社会と関わるような取り組みがなされている。	◎	園庭での遊びや生活を通して、草木や生き物など身近な自然に触れる機会を設けた。
園の行事や保育の内容などが知らされている。	◎	毎日の保育の様子を写真とコメントで配信し、保護者へ伝えた。配信前には、掲載写真の内容が適切であるかを確認した。

6・保育環境

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
園内外が清潔で心地よい空間となっている。	○	園庭の清掃、樹木の剪定、草刈り、玩具の消毒を継続して行い、保育者は室内をこまめに清掃した。
年齢に応じた保育が提供できる環境である。	○	発達や年齢を考慮して室内の玩具や空間を整え、子どもが好きな遊びを十分に楽しめる環境を構成した。
子どもが落ち着いて過ごせるよう、保育室の雰囲気やおもちゃが工夫されている。	◎	子どもの手が届く場所に、年齢・発達に合った玩具を準備した。4・5歳児の遊びの空間を見直し、手先を使う玩具のコーナーを設けた。

7・特別な支援を要する子どもへの対応

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	○	子どもが困っている状況を保育者間で共有し、臨床心理士の助言を受けながら必要な支援を行った。助言内容は書面にまとめ、関係職員間で共有した。

8・保護者支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
意見や要望などへの対応ができています。	○	連絡帳、登降園時の対話、保育参加、懇談会などを通して保護者の意見や要望を把握し、その内容を職員間で共有して対応した。
職員が子育て等、話しやすい雰囲気や態度で接している。	○	保護者と子どもに笑顔で挨拶し、登降園時には子どもの遊びや生活の様子を具体的に伝えた。また、保護者の思いを丁寧に聴き、相談しやすい対応を心がけた。

9・安全対策・健康管理

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育中の体調への心配りや怪我等に対して配慮されている。	○	事故やけがを予防するために保育環境を点検し、保育者同士で声をかけ合いながら子どもの行動を見守った。
感染症の発生状況や注意事項などが知らされている。	◎	感染症の発生時には、発生状況や注意事項を園内に掲示して保護者へ周知した。
子どもの成長を把握している。	◎	年2回の健康診断と毎月の身体測定を実施し、その結果を保護者・保育者・栄養士で共有した。
不審者対策を行っている。	○	正門・通用門の施錠管理を行うとともに、セコムの緊急通報装置を設置し、不審者の侵入に備えた。

10・給食

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
給食が楽しく食べられるよう工夫されている。	◎	旬の食材や自園栽培の野菜を取り入れ、食への関心を高めた。未満児・3歳児は遊びが一段落した子どもから食事に誘い、4・5歳児は空腹を感じた子どもが自らランチルームへ移動できるようにした。食事のマナーや食材を知らせ、野菜の収穫や調理器具を使った簡単な手伝いも行った。
食育を通して子ども達が食に興味をもてるようにする。	○	年間の食育目標に基づき、行事食や食文化を取り入れた食育を継続的に実施した。日常の保育に食育を位置付け、子どもが食に関心をもてるよう工夫した。
子どものサインを見逃さないようにしている。	○	食事を無理強いせず、体調や友達との関係など、子どもの様子を観察しながら援助した。
アレルギー除去食の対応。	—	今年度は食物アレルギー対応の対象児がいなかったため、評価対象外とした。
衛生管理の徹底。	◎	衛生管理マニュアルに基づき、手洗い、白衣・帽子・マスクの着用、調理室内の清掃を徹底した。

11・地域支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
地域との関係が適切に保たれている。	○	日頃から近隣住民へ挨拶を行い、地域との良好な関係づくりに努めた。
地域の子育て支援や交流に取り組んでいる。	○	園庭開放や育児支援・交流の機会を設け、参加した保護者の思いを聴きながら支援した。

12・職員育成

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
職員の質の向上に努めている。	○	職員が研修を受講する機会を設け、学んだ内容を園内研修で全職員に共有した。また、業務が一部の職員に偏らないよう、職員間で助け合い、話し合って職務を進めた。
社会人としての振る舞いを指導している。	○	立ち止まって挨拶することや、適切な言葉遣いで来客・電話に対応することを職員へ伝えた。また、職員が自らの仕事に誇りをもてるよう声をかけた。

園全体の評価

- ・使用済み紙おむつを密封する機器「エコムシュウ」を導入し、衛生環境が改善した。
- ・子ども会議を実施し、子どもの意見を取り入れながら運動会、生活発表会、夏祭りに取り組んだ。
- ・栄養士の職場復帰に伴い、食育活動を充実させることができた。
- ・派遣保育士やパート保育士が職員の約半数を占め、短時間勤務者もいるため、園が大切にする保育方針や子どもへの関わり方を全職員へ十分に共有できなかった。子どもへの言葉かけや関わり方に改善を要する事例が見られた。

来年度の課題

- ・園長・主任が保育現場での言葉かけや関わり方を継続的に確認し、具体的な事例を用いて園の保育方針を全職員へ共有する。
- ・保育参観の時間を9時30分から11時30分までとし、事前案内にも明記したうえで、参観日当日の朝にも保護者へ伝える。